

ベ ス ト ピ ア  
Bestopia

「パリ通信 8号」

ベストピアは小原靖夫の  
個人誌です。

平成  
二十四年八月  
第八号

< 2012年8月 >

古賀 順子

「南仏で結婚披露宴」

8月のパリはがらんとしています。主だったレストランやお店は夏休み。パリの住人たちはバカンス。観光客と居残り組だけの夏です。この夏フランスは北と南では季節が違うかと思うほどの気温差です。北は20-23℃の涼しさで、長袖も欲しいパリで「パリ・プラーージュ」(パリ市がセーヌ河畔に砂を敷き、人工の浜辺を設けて市民に解放。7月20日から8月19日の1ヶ月間開催)へ行く気分でもなく、結局「ロンドン・オリンピック」テレビ観戦で8月前半を過ごしました。ロンドンとパリの時差は1時間。寝不足にはなりません、フランスのテレビなので日本選手はなかなか映してくれません。8月5日女子マラソンの日も、ロンドンは20℃を下回る涼しさ。雨に降られるスタートで、選手たちにとっては猛暑を走るより楽なのかも知れませんが、雨と気紛れに変わるロンドンの空は、夏のオリンピックのイメージから少し遠いような気がしました。そんなロンドンやパリの冷夏から2時間、太陽が一杯に満ち溢れる南仏ヴァンスの結婚披露宴へ飛びました。

数年前からフランスで結婚式を挙げる日本人カップルが増えています。パリの街角でも、ウェディングドレスの撮影風景をときどき見かけます。ロワール河古城の挙式も人気があるそうです。今回お手伝いをさせていただいたのは京都の方で、ご家族と親しい友人だけを招いた宴でした。フランスはカトリックの国なので、商業活動として受入れる教会を除き、キリスト教徒でな

ければ教会で式を挙げることはできません。児童診療所でカウンセリングをされている新婦。お父様がカナダ人の新郎は、大学で心理学を教えながら、病院でもカウンセラー指導をされています。京都の伏見教会で式を挙げ、披露宴の地をヴァンスに選ばれました。フランスが好き、南仏が好き、地中海が好き、ヴァンスで二人の門出を祝いたかったそうです。料理やワインだけでなく、ブーケの花材、テーブルのアレンジ、花器、ドラジェの色やラッピングなどすべてを自分で選んだ「手作り」の宴です。8月13日月曜日。ヴァンス快晴。遠くにニースを見下ろし、地中海を望む町ヴァンス。その頂上にシャトー・サン＝マルタンがあります。8月の南仏の暑い太陽は神様の恵み。色とりどりの花、生命溢れる緑の木々。青い空と美しいシャトー・ホテルの庭に純白のドレスが眩く、美しく輝きます。ヴァンスを出発点とするお二人には、フランスの言葉を贈りたいと思います。モリエールが創立した劇団コメディイ・フランセーズのモットーです。

Simul et Singulis

(Ensemble et être soi-même)

「共にあり、己であること」

友佳子さん、スティーヴン、二人の人生の幕開けです。相手に依存せず、しかし一緒に南仏の光と色に満ちた舞台を作ってください。

南フランス

サン=ジャン・カップ・フェラ 結婚祝宴の近く

コクトーが内装をした別荘「Villa Santo Sospir」のテラスから。

